

文学部横断型人文学プログラム履修者へ

プログラム運営委員会

**<文学部横断型人文学プログラム>  
2023年度春学期「プロジェクト・ゼミ」履修者募集要項**

2023年度春学期開講のプロジェクト・ゼミについて履修を希望する学生は、以下の要領で必要書類をそろえ、締切日までに**メールにて提出してください。**

プログラム運営委員会で選考の上、3月上旬にLoyola上で本人に通知します。この選考に通った学生だけが履修を許可されますが、登録に関する手続きは、許可後に追って文学部長室より連絡致しますので、その指示に従ってください。

**【応募資格】**

- ① 現在2年次生以上であること。
- ② GPA（全履修科目の成績の平均）が2.5以上であること。
- ② 2年次末までに当プログラムの「共通基礎科目」（4単位）を修得（予定）の者。

**【提出書類】**

- ① **プロジェクト・ゼミ申請書（様式1）** データ
- ② **成績表 PDF\***
- ③ **自由選択科目認定申請書（様式2）** データ（認定を希望する科目がある場合のみ）
- ④ **自由選択科目として認定を希望する科目のシラバス PDF**

\*添付する「Loyolaの履修成績照会画面の写し」作成方法

Loyolaメニュー成績>履修成績照会から、「過去を含めた全成績」にチェックし、「ファイルに出力する」を選択。「ファイル出力開始」をクリックして作成されたPDFファイルを添付してください。

なお、個人情報が含まれるデータ書類については、パスワードをかけてください。

**【締切と提出先】**

**2023年2月24日（金）**

**文学部長室横断プログラム相談窓口：[sophia.fhu.pd@gmail.com](mailto:sophia.fhu.pd@gmail.com)**

**【2022年春学期プロジェクト・ゼミの概要】**

- ① 「プロジェクト・ゼミA（芸術文化論コース）」

担当者：桑原 俊介（哲学科准教授）

曜日時限：火曜5限（予定）

授業題目：「四谷キャンパスのゲニウス・ロキ」

授業概要：「どの土地も、生きのもののよう生きています。都市論ではそういった土地の精神のようなものを「ゲニウス・ロキ」（＝地霊）と呼びます。このゼミでは、四谷キャンパスの地霊を呼び起こすことを目的とします。この土地も、信じられないほど多様な運命を生き抜いてきました。過去には、この土地を象が闊歩し、能が舞われ、桑畑が広がり、大砲が轟き、舞踏会が開かれ、暗殺未遂が起き、武道が栄え、財閥が犇き、有名な寿司職人が育ち、藩の使用人が故郷を想い涙を流しました。メインストリートには江戸時代の都市計画の驚くべき天文学の痕跡が残されています。地質学的にも、この土地は、縄文の記憶を刻む東京・江戸の要にあたる土地です。そこには「水」「流動」「交差」といった哲学的テーマが深く関わります。四谷キャンパスに息

づくゲニウス・ロキの息吹を『ブラタモリ』『アースダイバー』的な観点から真剣に遊びつつ探究します。」

② 「プロジェクト・ゼミ C (芸術文化論コース)」

担当者 : 松本 朗 (英文学科教授)

曜日時限 : 金曜 3 限 (予定)

授業題目 「英語圏文学と映画」

授業概要 : このプロジェクト・ゼミでは、英語圏文学の作品を原作とするアダプテーション映画を題材に文学研究と映画研究を融合した研究を行い、アダプテーションが創造的かつ批評的な営みであることを実践的に学びます。最初の数週間では教員が文学研究、映画研究、アダプテーション研究の理論的側面を教えますが、その後、学生は、自分が扱う文学テキストとアダプテーション・テキストを選び、それに関するプロジェクトを立ち上げ、学期末のプレゼンテーションおよびレポートの完成を目指します。

③ 「プロジェクト・ゼミ C (ジャパノロジー・コース)」

担当者 : 高橋 直治 (新聞学科准教授)

曜日時限 : 火曜 5 限 (予定)

授業題目 「『二十四時間の情事／ヒロシマ・モナムール』から遠く離れて  
～忘却と愛をめぐるパラドクス、メディア実践研究と再創作の試み～」

授業概要 : 1959 年の日仏合作映画『二十四時間の情事』(原題 : Hiroshima mon amour ヒロシマ・モナムール) とそのリメイクを試みた 2003 年の日本映画『H story』を、いくつかの視座で、表象文化論的かつ歴史社会的に比較、分析する。関連する先行研究、映画映像作品、テキストも多数参照することで、「ヒロシマ・モナムール」および「H story」の表現論的戦略を探究し、2023 年の現在においても、その表現方法にアクチュアリティが存在するのか否か、批判的にその可能性を救出する。使用言語は日本語。文献は翻訳テキストを使用する。受講生の人数・構成にもよるが、各班に分かれて分析・考察をまとめ、最終的には 2023 年度版のヒロシマ・モナムールとなるような「24h の《非》情事 (仮題)」という戯曲またはシナリオの執筆を目指す。

【注意】

1. プロジェクト・ゼミで履修した単位は、**18 年次生以前の学生は卒業要件に入りません。**
2. 現在 1 年次生は応募資格がありません。
3. 一人の学生が履修できるゼミは原則的に 1 つです。コースを確定している人は第一希望のみの記入です。複数コースにまたがる履修をしている人は、優先順位をつけて 2 つ記入可能です。
4. **選考に通ったけれども履修不可能になった人は、速やかに「履修相談窓口」(下記 9 参照) に知らせてください。**
5. 留学・休学・編入・転部科・9 月入学など特別の事情があり、履修状況が通常の学生と異なる学生は、個別に対応しますので、申請書の特記事項欄にその旨を書いてください。
6. 応募者が極端に少ない場合や辞退者が多数になった場合、追加募集を行う可能性があります。その場合は 2 月中旬に Loyola の文学部掲示板や文学部 HP で告示します。
7. 2023 年度のシラバスは 3 月中旬に公開予定です。つきましては、上記プロジェクト・ゼミの授業概要を参考としてください。なお、過去の文学部横断型人文学プログラムのシラバスを参照したい人は、Loyola の「シラバス参照」で、「年度」を入れ、「科目ナンバリング」に「HUM」と入力すると、まず科目一覧が出ます。このうち、「登録コード」が「HUM」で始まるものが、その年度の文学部横断型人文学プログラムの全科目です。
8. 『文学部横断型人文学プログラム・履修ガイドブック 2022 年』(文学部 HP からダウンロード) や、『上智大学・履修要覧 2022 年度』の 202~209 ページを読み、不明点は、「履修相談窓口」([sophia.fhu.pd@gmail.com](mailto:sophia.fhu.pd@gmail.com)) までメールにて相談してください。

以 上